

平成29年10月30日

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団

平成29年度持田記念学術賞並びに研究助成等について

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は平成29年度の持田記念学術賞受賞者、並びに研究助成金及び留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には13名の研究者が推薦され、その中から大阪大学の吉森保博士と京都大学の岩井一宏博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成及び留学補助には719件の申請があり、研究助成金交付対象者86名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

平成29年度持田記念学術賞、並びに研究助成金及び留学補助金の贈呈式を平成29年11月9日(木)15時よりステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)において行います。今年度は研究者招聘助成対象12学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額2億9400万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	13件	3件	2件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	12件	3件	
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究	13件	4件	
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	14件	5件	
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	18件	2件	
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	16件	3件	
合計		86件	20件	2件

当財団は、昭和58年の設立以来、研究助成2017件（計36億1799万円）、留学補助491件（計2億4550万円）、研究者招聘助成244件（計1億2200万円）、持田記念学術賞68件（計3億3200万円）の総額43億1749万円の助成並びに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団

zaidan@mochida.co.jp

平成29年度持田記念学術賞受賞者



吉森 保（よしもり たもつ）博士

大阪大学大学院 生命機能研究科・医学系研究科 教授（荣誉教授）

受賞研究テーマ

「オートファジーの作動原理と病態生理の解明」

吉森博士は、オートファジー研究においてオートファゴソーム結合蛋白質LC3を発見し、哺乳類生細胞におけるオートファジーの可視化に成功した。これにより、哺乳類オートファジーの解析が容易になり研究分野発展の原動力となった。

オートファゴソームの形成場所が小胞体とミトコンドリアが接触する部位であることを特定し、細胞生物学のパラダイムシフトをもたらすものとして注目された。また、オートファジーが細胞に侵入した病原性細菌を捕獲して殺す機能を有し、自然免疫としての役割を持つことを発見した。さらにはオートファジーが尿酸結晶などで傷ついたリソソームを選択的に除去して高尿酸血症による腎症を抑制することや、肝変性疾患を起こす易凝集性タンパク質を選択的に除去することなど、疾患におけるオートファジーの役割の解明へと研究を発展させており、世界を先導する先見的・独創的な研究業績である。

- 主な略歴
- | | |
|------------|---------------------------|
| 1958年9月3日生 | |
| 1981年3月 | 大阪大学 理学部 卒業 |
| 1986年3月 | 大阪大学大学院 医学研究科 博士課程中退 |
| 1986年4月 | 関西医科大学 助手 |
| 1996年7月 | 岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所 助教授 |
| 2002年3月 | 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 教授 |
| 2006年2月 | 大阪大学 微生物病研究所 教授 |
| 2010年4月 | 大阪大学大学院 生命機能研究科・医学系研究科 教授 |
| 2017年7月 | 大阪大学 荣誉教授 |

- 主な受賞歴
- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 2013年4月 | 文部科学大臣表彰科学技術賞 |
| 2014年10月 | 柿内三郎記念賞 |
| 2014年、2015年 | トムソンロイター Highly Cited Researchers |
| 2016年3月 | 上原賞 |

平成29年度持田記念学術賞受賞者



岩井 一宏 (いわい かずひろ) 博士

京都大学大学院 医学研究科 教授

受賞研究テーマ

「慢性炎症・免疫制御・癌化に関わる新規ユビキチン修飾系の
発見とその疾患への関与に関する研究」

ユビキチン修飾系はユビキチン鎖をタンパク質に結合させて制御する翻訳後修飾系である。ユビキチン鎖はユビキチンに7個存在するリシン残基のいずれかを介して形成されると考えられてきた。岩井博士は、ユビキチンのN末端メチオニンを介した直鎖状ユビキチン鎖が存在することと、直鎖状ユビキチン鎖を選択的に生成するLUBACユビキチンリガーゼを発見した。この発見はユビキチン研究に新しい概念を導入した。

直鎖状ユビキチン鎖とLUBACの生理的・病理的役割の解析の研究を推進し、免疫応答、炎症、癌化などに関与する転写因子であるNF- κ Bの活性化に関与することを見出した。また、LUBACの活性化の抑制がびまん性B細胞株の増殖を抑制することを示すなど直鎖状ユビキチン鎖が癌に関与することも発見した。さらに、LUBAC阻害剤の開発なども進めており、岩井博士の研究はユビキチン研究に新たなパラダイムを提供する、世界に誇る先見的・独創的な研究業績である。

- 主な略歴
- | | |
|------------|---------------------------|
| 1959年9月8日生 | |
| 1985年3月 | 京都大学 医学部 卒業 |
| 1985年6月 | 神戸市立中央市民病院 内科研修医 |
| 1992年3月 | 京都大学大学院 医学研究科 博士課程修了 |
| 1992年10月 | 京都大学医学部 助手 |
| 1993年4月 | 米国国立保健研究所(NIH) 研究員 |
| 1997年6月 | 京都大学大学院医学研究科 助教授 |
| 2001年7月 | 大阪市立大学大学院 医学研究科 教授 |
| 2008年4月 | 大阪大学大学院 生命機能研究科・医学系研究科 教授 |
| 2012年4月 | 京都大学大学院 医学研究科 教授 |
- 主な受賞歴
- | | |
|----------|----------|
| 2015年11月 | 日本医師会医学賞 |
|----------|----------|